令和３年度　徳島北高等学校　第１回学校運営協議会　協議等の概要

１　日　時

令和３年８月１６日（月）　午後１時３０分から午後３時３０分まで

２　場　所

徳島北高等学校　大会議室

３　学校からの説明（学校運営協議会について）

豊田教頭が学校運営協議会の概要と徳島北高等学校運営協議会要綱について説明した。

４　役員選出

会長として永濵ＰＴＡ会長，副会長として桂校長が選任された。

５　協　議

（１）学校経営方針について

桂校長が，令和３年度の学校経営方針について説明し，承認された。

（２）教育課程の編成について

教務・情報課の美﨑教務主任が，令和３年度の教育課程の編成について説明を行い，承認された。

（３）学校評価計画について

企画課の北浦課長が，令和３年度の学校評価計画について説明した。

（４）学校運営協議会（コミュニティ･スクール）導入後の新たな取組について

豊田教頭が,コミュニティ・スクール導入後の新たな取組として以下の内容を説明した。

①「総合的な探究の時間」（Ｋ－ＴＯＰ）の成果発表会（２年）に保護者や地域住民にも参加してもらい，課題研究の発表を行う。令和３年度は，その前段階として学校運営協議会委員を招いて実施し，次年度以降に保護者，地域住民と広げていく。

②外部講師によるグローバル人財を育成するための養成講座を新たに開設し，本年度はＪＩＣＡで活動した後，徳島で地域振興の活動をされている方を招いて講演会を実施する。

（５）各委員から提言等について

ア　「総合的な探究の時間」（Ｋ－ＴＯＰ）については期待している。いろいろなものに興味・関心をもつ子供を育成するためには,学び方や学びに向き合う姿勢が大切である。

イ　北高は地元商店街と協力して地域活動を以前は行っていたが，コロナ渦で現在は難しい状況が続いている。また，活動がもどれば積極的に地元の活性化に協力してもらいたい。

ウ　高校は小学校，中学校よりも主体的な取組が必要である。そのことで夢を見つけた子供は，上の学校や社会に出て更なる成長ができるであろう。

エ　小学校で観た映画，中学校で行った見学，高校での異文化体験の内容は今でも記憶に鮮明に残っている。学校は感動や気づきを与える場であることを教員は忘れてはいけない。生徒に機会を与えてやれば一人で進んでいけることもある。日々の授業や活動の中でのコミュニケーションで後押ししてやってもらいたい。

オ　学生時代に視野を広げることはとても重要だ。私自身も新聞記事である国の実情に興味をもったり，ＵＮＩＣＥＦの特別講座で国際協力の必要性を実感し，それが現在の自分につながっている。学校がそのような機会を生徒に提供することは重要である。

カ　少子化が進行していく中で，学校の差別化や選ばれる学校になるためにはメニューを示すだけでは不十分である。生徒が自分の個性をしっかり知るための働きかけが必要でる。また，グローバル人財を育成するためには，自分のキャリア形成の中で境界がないということを理解させる必要がある。

キ　学校は，「子供たちに何をするのか」というよりも「子供たちに何をしてもらうか」という視点がもつことが重要である。

ク　子供たちが何に向かって進んでいくのか，そこには先生との出会いが大きい。よい先生に出会えれば，子供たちも羽ばたきも大きくなると思う。